

2023 年 10 月 19 日 (木)

ガザ事態に対するキューバの見解

ブルーノ・ロドリゲス・パリージャ、キューバ共和国外務大臣による記者会見

ご出席いただきありがとうございます。

昨日、私は、キューバに駐在するアラブ連盟加盟国の大使をお迎えし、緊急な解決の必要性について意見交換を行いました。私は、パレスチナとアラブの大義に対する私たちの揺るぎない連帯を確認しました。

キューバは、ガザの住民に対する無差別爆撃と、家屋、病院、民間インフラの破壊を強く非難します。

集団的懲罰、国際人道法の重大な違反、戦争犯罪、人道に対する罪を構成するこのような行為を正当化することは、決してできません。

私たちは、民族、背景、国籍、信仰の有無にかかわらず、今回のエスカレーションの結果、一般市民や罪のない人々が殺害されたことを強く非難します。私たちは、キューバのアラブ人およびヘブライ人社会の痛みを分かち合います。

現在の重大な局面において、国連安全保障理事会は、現在進行中の虐殺の停止を求めることさえできていません。

米国政府は、昨日、国連安全保障理事会で、ガザへの援助アクセスを可能にし、市民の保護を確保するために、単に戦闘の人的一時停止を求めるだけの提案に拒否権を発動しました。時期尚早だという口実を使ったのです。それは、停戦を求めるものではなく、無差別かつ犯罪的な攻撃を受けているガザの民間人に援助を届けるための人道的な一時停止を求めるだけの決議案でした。

米国政府のこの決定は、遺憾であるだけでなく、危険でもあります。アメリカ政府の立場は、現在のジェノサイドへのエスカレーションを止め、平和への道を追求することを危うくするものです。

しかし、これは誰も驚くことではありません。米国政府は、パレスチナに関する安保理の行動を妨害し、中東の平和と安定を損なってきたイスラエルの歴史的な犯罪の共犯者ですし、それを許してきた責任があります。

米国は、パレスチナ問題を含む中東情勢に関連する 46 件の安保理決議に拒否権を発動してきました。私たちは、この 10 日以上にわたって、中東における重大な事態を大きな懸念、落胆、衝撃をもって見守ってきました。

パレスチナの占領地であるガザ地区とヨルダン川西岸地区では、極めて大規模な人道的大惨事が起きています。イスラエル軍の諸司令官によって発表されたガザ地区への地上侵攻は、予測不可能な結果をもたらすでしょう。

現在の状況は、75 年にわたる不法な占拠の結果であり、パレスチナ人の固有の領土における不可侵の権利の侵害の結果です。

イスラエル政府が平然と行動しているのは、その行動に対して責任を問われることはないという自信と、米国政府をはじめとする NATO の同

盟国の支持があるからにほかなりません。（仮訳：新藤）